

## JICA2019年度課題別研修「地域開発計画管理」コースを受け入れました

令和元年10月8日から11月13日にかけて、アルバニア、ブータン、モンゴル、インドネシア、ネパール、シエラレオネ、セネガル、ウズベキスタン、タジキスタンの9カ国から10名の行政官をJICA2019年度課題別研修「地域開発計画管理」コース（受託機関：公益財団法人 はまなす財団 コースリーダー：東海大学教授 平木 隆之氏）の研修員として受け入れました。

本研修は、北海道総合開発の手法を参考に参加者が自国の地域開発の計画管理・運営等の技術を習得することを目的としており、北海道開発局は、北海道総合開発の体制や当局が実施する事業、道の駅やシーニックバイウェイ等の現地視察を組み合わせた研修プログラムを提案し、研修員が多くの成果を得られるよう協力いたしました。

### 【北海道開発局表敬訪問】



後藤局長のご挨拶



研修生代表の挨拶



後藤局長との記念写真

## 【講義、視察の様子】

研修プログラムにおいて、北海道総合開発体制をはじめ、我が国の財政と北海道開発予算、篠津の農業開発の歴史、道の駅やシーニックバイウェイ等、当局が実施する事業について、職員が講師となり講義を実施いたしました。

また、フィールドワークとして、道の駅とうべつでは、当別町のご担当者から、当別町の地方創生と道の駅の役割などについての講義を受けた後、施設の見学をさせていただきました。

さらに、シーニックバイウェイ北海道（支笏洞爺ニセコルート）の支笏湖周辺を視察するとともに、支笏湖ビジターセンターにて、シーニック活動団体の代表者から、道路と川が連携したシーニック×かわたびプロジェクトの取組等について講義を受けました。



道の駅・シーニックバイウェイ



篠津の農業開発の歴史



道の駅とうべつスウェーデン館での講義



シーニックバイウェイ北海道（支笏湖）の視察

## 【スタディレポート発表会】

本研修の最終日である11月13日には、研修で学んだ重要なテーマについて、それぞれの研修員が理解した内容をまとめ、帰国後の活動を含めて自国への適用可能性を検討する「スタディレポート」の発表会が実施されました。

研修員はそれぞれ今回の研修の成果と、帰国後この研修をどのように活かしていくかという点について検討し、発表しました。

発表後はコースリーダーである東海大学教授平木隆之氏より総評をいただき、研修の成果を確認しました。



アルバニアの研修員による発表

## 【閉講式】

研修最終日の午後には閉講式が行われました。JICA 北海道センター次長から各研修員に修了証書が授与され、北海道開発局からは宮本国際室長が本研修の協力機関として挨拶を述べました。研修員代表からは、本研修関係者への感謝の意と研修内容を今後の業務に活用していくことへの抱負が述べられました。



修了証書授与



研修員スピーチ



全員で記念写真

本研修の成果が研修員の母国の発展に寄与するとともに、研修期間中に築かれた日本や各参加国との友情が今後も続いていくことが期待されます。

研修にご協力いただきました皆様本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。